



第60号

2017年11月15日発行

発行所

社会福祉法人日本キリスト教奉仕団
障がい者総合福祉施設アガペセンター
〒252-0002 座間市小松原2-10-14
TEL 046-254-7111 FAX 046-255-2915

ホームページアドレス
<http://www.agape-jcws.com/>

福祉の現場で働く

将来福祉の仕事を視野に入れている学生に向けて、求められる資質や心構えなどを、アガペ壱番館（入所施設）に入職し十五年、座間市立もくせい園（知的通所施設）勤務三年の老沼洋平さんに伺いました。

まだ見ぬ君へ

座間市立もくせい園

課長 老沼 洋平

福祉の分野で、人材不足が言われるようになってから何年が経過しているでしょうか。二〇一五年には、二四八万人の人材が必要となり、そのうち、三十万人の人材不足が予想されています。追い打ちをかけるように、昨年の七月二十六日には、津久井やまゆり園で悲しい、決して許されない事件が起つてしまい、各現場へ大きな影響をもたらせたのではないでしょうか。私には、その様な状況を改善する力は到底ありませんが、少しでも福祉に興味を持たれている未来の担い手へ、少しばかりの助言とエールを送りたいと思います。

はじめに、これから記すことは、私が所属している法人やセンターの理念とは全く関係せず、私の経験を通じてお伝えすることをご理解下さい。まずは、今一度「なぜ自分はその仕事を選

ぶのか」を考えみて下さい。大抵の人は生活のために働くことを選択します。もし、動機が金銭的なことだけであれば、いつか苦しく辛い状況を招き、続けることを迷う時がくるかもしれません。是非、プラスアルファの目的を持つて下さい。それがやりがいにつながるはずです。

福祉とは「幸せを追求」するものだと考えていますが、では、どのような人材が求められているのでしょうか。では、未経験者は不要なのか。私は違うと思います。真摯に取り組み、相手を理解しようという気持ちさえあれば、時間の経過とともに、克服できるものだと信じています。ここでは、私なりに必要と感じている資質を挙げていきたいと思います。まずは、①前向きであること②他者を受け入れ、認めること③当事者の代弁ができること④組織の理念を理解し、実践できること。以上の四点が重要と考えます。当事者のありのままを受け入れ、その状況を前向きに捉えていきます。他者の価値観や意見を尊重することで同じ目標を持ち、

当事者が幸せになれるよう、組織の理念を実践します。これらは当事者だけでなく、働き手である我々も幸せになるために重要な資質だと思っているのです。それは、前向きでいることです。当事者を常に中心に考え、代弁をすることで組織の存在意義を見失わず、併せて、他者を受け入れることで「同志」ができます。この同志は、良い事ばかりではなく、きっと貴方の悩みや辛い出来事も共有し、励ましてくれるでしょう。私は、この「同志」がいてくれたからこそ、続けられたのだと思っています。

最後に：人生とは、人と人が複雑に絡み合いながらともに歩んでゆくもの。福祉とは、その人生に寄り添われてもらう仕事です。我々働き手が当事者から与えられるものは計り知れず、感謝され感謝する仕事が福祉であり、私はこれほど素敵な仕事は他に知りません。

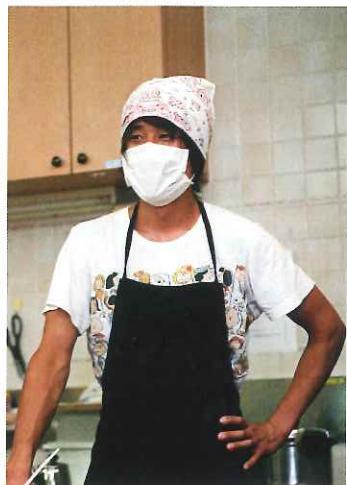
まだ見ぬ君へ。そこにはきっと素敵な幸せな出会いが待っています。



生活支援員の声

生活支援員として、福祉の仕事を選んだ理由、日々心掛けていることなど、アガペ 壱番館（入所施設）勤続三年目で、キラキラと輝く湯浅貴樹さん、十一年目のベテラン内野俊さんのお二人にインタビューしました。

本館生活支援課 湯浅 貴樹



て話の輪に入れてくれたことです。その利用者さんは今では冗談を言い合える仲になっています。

入所している利用者さんは、良い人が多いと思っています。仕事を通して関わるので、「良い人悪い人」でどうこう言うことではないと思いますが・・・。経験もなく初めて福祉現場に入ったのに、僕を受け入れてくれたわけだし、優しい言葉もかけてくださる人もいて、だからこそ続けられたのだと思います。

「人の役に立てることがやりがいにならんじやないか」

アガペに入職するまでは、自分のやりたいこともあったのでフリーランをしていましたが、その頃から福祉業界には興味がありました。以前携わっていた塗装会社では、職場環境も良くなくて、仕事に行くのが嫌なときもありましたが、今は全くありません。もちろん全部が全部ではないけれど、人の役に立てている実感が持っています。人と関わる仕事が好きだし、身体を動かす仕事が好きなので、自分には合っていると思います。

アガペセンターに入職したのは、二〇〇六年でした。丸十年が過ぎました。学校を卒業して、実習先だったアガペに入職をしたので、アガペしか知らないという思いもあります。そんな中、二〇一四年から二年間、アガペ壱番館（入所施設）を離れて、座間市立

利用者さんは今では冗談を言い合える仲になっています。

入所している利用者さんは、良い人が多いと思っています。仕事を通して関わるので、「良い人悪い人」でどうこう言うことではないと思いますが・・・。経験もなく初めて福祉現場に入ったのに、僕を受け入れてくれたわけだし、優しい言葉もかけてくださる人もいて、だからこそ続けられたのだと思います。

知的障害のある方が通う場所で働くのは新鮮でしたし、密な家族とのやりとりも大きな違いでした。

仕事を通して、利用者さんと関わることはできるのは大きなよろこびです。が、現実問題として、給与のことを考えて仕事を続けていかか否か迷ったことはあります。アガペしか知らないし、あのとき辞めて、ほかの場所で働いていたら、と考えることもないわけではありません。でも、そのとき上司が、同じ男性として、福祉の世界で働くことについたのは、とても良かったと思っています。

「当たり前のことを当たり前に」

正直なところ、この先どうなっていいか、自分としてもよく分かりません。でも、僕は現場で利用者さんと直接関わっていたいという思いが強いです。そして、一日一日を積み重ねていきたい。マンネリになってしまふこともあります。けれど、利用者さんにとつてかけがえのない一日です。その日によつて、僕と利用者さんの間で、お互いのコンディションも違います。同じ日は二度とあ



いろいろな心配がありますが、このキリストの言葉は、心配しなくていいという思いもあります。そんなの会話の糸口がなかなか見つからないので、先輩に「スポーツが好きらしいよ。」と聞いて、野球の話をしてもみたり、いろいろと試しました。その利用者さんと打ち解けるきっかけになつたのは、ベテランの非常勤職員さんが入浴の介助をしているときに話が弾んでいて、気を利かせ

りません。そういう意味でも、一日一日を大切にしたい。

「当たり前のことを当たり前にやる」難しさってあると思います。職員がチームで仕事をするときに、決まっているルーティングが、意外とできなったりします。それが利用者さんが混乱するきっかけになります。それは、知的、身体どちらの障害がある方にとっても同じです。いかに当たり前にできるかを、新しく一緒に仕事をする人にも伝えたいと思っています。

わたしの聖句

アガペ 壱番館 多田 寛一

「明日のことを思いわずらうな。明日のことは、明日自身が思いわずらうであろう。一日の苦労は、その日だけで十分である。」（マタイによる福音書六章三十四節）

「当たり前のことを当たり前にやる」難しさってあると思います。職員がチームで仕事をするときに、決まっているルーティングが、意外とできなったりします。それが利用者さんが混乱するきっかけになります。それは、知的、身体どちらの障害がある方にとっても同じです。いかに当たり前にできるかを、新しく一緒に仕事をする人にも伝えたいと思っています。

「アジア交換研修」〇一七

を終えて

アジア研修交流事業担当

渡沢 浩二

一九八〇年以来実施されてきた、アジア交換研修ですが、五年間続いた中国ホイリンからの研修は、今年最終年となりました。

今回は、中国から延べ七名の障害者福祉職員を迎える、六月と九月に三週間ずつの研修を行うものでした。中国という異なる国事情にあるとはいえ、障害者が地域社会の中で生きがいを見つけ、社会に参加する喜びと人生の意味を見出すための支援をするために、研修生は皆、真剣に学習していました。

六月の研修テーマは「障害者の就労支援」でした。視察したどの特例子会社でも、障害者が生きがいをもつて労働してお

り、それを支える会社の熱意を実感しました。研修生のウェン・ランロンさんは、「中國では障害者の多くが



6月研修生 閉校式



9月研修生 広島にて

まだ社会の片隅で暮らしていますが、

ここでは行政と施設と企業が協力して救いの手を差し伸べ、自らの尊厳と自立を回復している姿に、深い感動を感じました」と熱く語っていました。

また九月の研修では、「生活介護」をテーマに入居施設や通所での介護を見学しました。参加したチャン・ウージエさんは、「利用者の必要に合わせた支援や職員が機械を使うことで無理なく介護している姿に、アガペの理念が生かされていると感じました」と感想を述べていました。

彼らは余暇プログラムとして東京、横浜、京都、広島、河口湖、富士山を観光することができました。日本の文化と日本人のおもてなしに触れて、「平和」の大切さ、また、人を自分のように愛する「アガペの愛」の大切さを感じ取っていただけたと思います。「ホイリンでもそのような介護をしていきたい」と語った研修生の今後の活躍を祈ります。

「本日カフェ開店」

生活支援員 熊谷 裕子



加し、各々ができると支援員と協力して行いました。

もくせい園では午後にレクリエーション、カラオケ、ドライブなどさまざまなプログラムを用意していました。今回はその中でも少し特別な「なりきりカフェスタッフ」をご紹介します。

「なりきりカフェスタッフ」とは、エプロンをつけてカフェスタッフになりきり、ドリンクとフードを用意して接客もしよう、というプログラムです。

「なりきりカフェ」の開催は年に数回。カフェは十四時過ぎから三十分程度のごく短時間営業です。

今回は十八名がスタッフとして参



客さんとなつて楽しみました。「おいしいね!」と言いました。合うスタッフの顔はこの日一番の笑顔でした。

カフェ開店の時間には、他のプログラムに参加していた利用者さんもお客様として会場の食堂にやってきます。カウンターでは「いらっしゃいませ!」と元気な声で接客するスタッフ、ついたての後ろでは黙々と飲み物をコップに注ぐスタッフがいます。見ているだけの、いいえ、監督のスタッフもいます。そして最後はなりきりスタッフもお

客さんとなつて楽しみました。「おいしいね!」と言いました。合うスタッフの顔はこの日一番の笑顔でした。

二〇一七年 秋雨が染みるアガペ祭

アガペ祭委員長

小田中 博志

週間予報では雨…。ここ数年晴天が続いたアガペ祭でしたが、このニュースに実行委員会では数日前から大慌てで計画変更を検討することとなりました。

そのため恒例のステージ企画や模擬店を縮小することとなり、半ば「ミニアガペ祭」といった様相を呈する当日企画とはなりました。が、屋内に会場を移したステージ企画は満員御礼、各種販売も早々と売り切れ店が続出し、また新企画の神奈川ライトハウスさんのご協力によるマッサージコーナーも盛況で、コンパクトながらもアットホームで温かなひとときとなりました。

企画は満員御礼、各種販売も早々と売り切れ店が続出し、また新企画の神奈川ライトハウスさんのご協力によるマッサージコーナーも盛況で、コンパクトながらもアットホームで温かなひとときとなりました。

とりわけ小西夜香さんによるピアノ演奏では、この日の秋雨のようないい曲で利用者の皆さんも大いに盛り上がりました。



がつた二部仕立ての構成で、音楽の魅力を余すところなく楽しめるステージとなりました。

尚、当日の急な予定変更等により、多くの皆様にご面倒をおかけしましたことをお詫びいたしますとともに、ご協力をいただきま

行っています。

働いて嬉しかったことはなんですか？

最初はペースも遅く、ミスも多かったですが、慣れてくるにしたがって、自分でどうすれば良いか考えて、仕事ができるようになったことが嬉しかったです。初めてお給料を頂いた時も嬉しかったです。

す。

休日はどのように過ごしていますか？

今年から、飼い始めたトイプードルのラテと過ごすのが楽しみです。

アガペの利用者さんに一言お願いします。

自分に合う事や合わない事でも、コツコツ諦めないで続けていけば、チャンスが来て就職に繋がると思うので頑張ってください。



同窓生は今



末松あづみさん

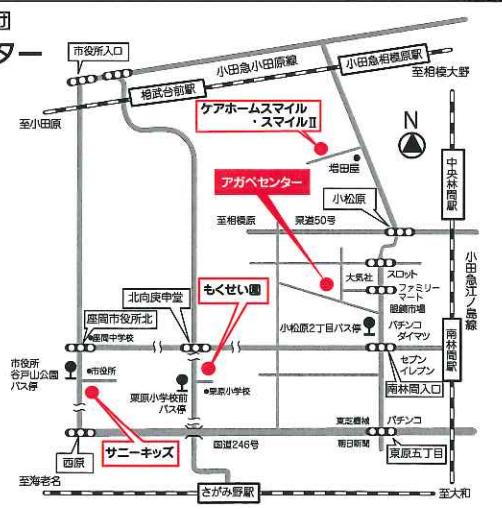
現在のお仕事について教えてください。

私は、藤沢市役所の産業労働課J.O.Bチャレ事務室で働いています。主な仕事は、市役所内の書類の封入封緘や資料の仕分け、シュレッダー、講演会のテープおこしやパソコン入力などの事務補助を行っています。



社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団
障がい者総合福祉施設 アガペセンター

- ・障がい福祉サービス事業所
アガペ第1作業所・第2作業所
- ・障がい者支援施設
アガペ看番館
- ・障がい福祉サービス事業所
生活介護事業
相談支援事業（総合相談室）
アガペサポートセンター
- ・障がい福祉サービス事業所
座間市立もくせい園
(〒252-0014 座間市栗原中央 6-7-27)
- ・児童発達支援事業
座間市サニーキッズ
(〒252-0021 座間市緑ヶ丘 1-2-1
総合福祉センター（サニープレイス）内)
- ・障がい者グループホーム
ケアホームスマイル
(〒252-0001 座間市相模が丘 2-32-24)
スマイルⅡ
(〒252-0001 座間市相模が丘 2-32-2)



車両配備の報告とお礼

この度、赤い羽根共同募金の助成を受け、リフト付き車両を配備することができました。ご寄付いただいた皆様の善意に対しまして、心から御礼申し上げます。今後も利用者様のサポートと地域福祉の推進に努めてまいります。

お知らせ

九月三十日に開催された臨時理事会において、当法人の理事長が山田貫司から渡辺教に代わりました。今後ともよろしくお願いします。